

議案第 68 号

団体営渋川第五地区（八木沢貯水池）土地改良事業の施行について

土地改良事業を施行したいので、土地改良法（昭和 24 年法律第 195 号）第 96 条の 2 第 2 項の規定により、別紙のとおり事業計画の概要を定めるため、議会の議決を求める。

令和 5 年 9 月 5 日提出

渋川市長 高 木 勉

理 由

団体営渋川第五地区（八木沢貯水池）土地改良事業の施行に当たり、事業計画の概要を定めようとするものである。

## 団体営渋川第五地区（八木沢貯水池）土地改良事業計画の概要

### 1 目的

八木沢貯水池は、群馬県北部、渋川市北西部（小野上地区）に位置し、八木沢からの沢水及び八木沢揚水立坑を水源とし、水田4.2haをかんがいする水源施設である。本ため池は、堤高3.8m、堤頂長82.0mの昭和58年に上越新幹線中山トンネルの濁水対策恒久施設として築造された。

令和2年度の耐震調査では、現況堤体が必要な耐震性を有しておらず、大規模地震では堤体の安定性が確保できないため、すべり破壊が生じるおそれがある。

ため池下流部には、農地だけではなく、一般住宅や市道もあり、ため池が決壊した場合、農地、農業用施設及び人命、財産等に影響を及ぼすことが想定されることから、必要な耐震性を有していないため池整備を実施することにより、災害の未然防止を図る必要がある。

### 2 地域及び地積

- (1) 地域 渋川市小野子地内
- (2) 地積 田4.2ha

### 3 気象

- (1) 一般気象

観測所名	前橋観測所		自1991年～至2020年	
	かんがい期 5月～9月	非かんがい期 10月～4月	計	備考
平均気温 (°C)	23.2	9.1	16.2	年平均
降水量 (mm)	872.0	407.0	1,279.0	
根雪期間	無霜期間	最多風向	最大風速 (風向)	積算温度 (年平均積算気温)
—	—	北北西	14.5m/s (北西)	165,034.3°C (5,501°C)

## (2) 特殊気象

観測所名	前橋観測所										備考
	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		
自1996年 至2005年	数量	年月日	数量	年月日	数量	年月日	数量	年月日	数量	年月日	
最大日雨量 (mm)	201	1999. 8. 14	157	1997. 9. 11	139	2002. 9. 4	134	1998. 9. 16	128	2002. 7. 10	
最大時間雨量 (mm)	102	1997. 9. 11	69	2002. 8. 3	58	2001. 7. 25	54	2002. 9. 4	46	2005. 8. 14	
最大4時間雨量 (mm)	137	2002. 9. 4	89	2002. 8. 3	83	2001. 8. 27	76	1998. 7. 24	70	1998. 9. 16	
最大連続雨量 (mm)	356	1998. 8. 11	223	1997. 9. 11	172	2001. 8. 26	171	2002. 9. 4	167	1998. 8. 27	
最大連続干天日数 (日)	27	1997. 10. 5 1997. 10. 31	24	2001. 4. 1 2001. 4. 24	16	1996. 5. 23 1996. 6. 7	15	2000. 10. 5 2000. 10. 19	15	1996. 4. 1 1996. 4. 15	(4月～10月)
積雪深 (cm)	31		最大凍結深 (cm)		-						

## 4 土地状況

### (1) 地形、地質及び土壌

標高 (m)		傾斜		土地の起伏状況	地質	土質
最高	最低	縦断	横断	傾斜地	表土 礫質	折原統
330	260	1/20				

(2) 土地分類 該当なし

(3) 土地利用の状況 水田 4. 2 h a

(4) 土地所有の状況 個人有 3 戸

## 5 改修を要する施設

(1) 施設名 八木沢貯水池

(2) 受益面積 4. 2 h a

(3) 構造 均一型

(4) 規模 堤頂長 82 m、堤高 3. 8 m、貯水量 3, 000 m<sup>3</sup>

(5) 新設年 昭和 58 年

(6) 改修を必要とする理由

レベル 1 の耐震調査の結果、安全率 1. 2 を下回り、耐震化対策を実施する必要があるため

## 6 たため池決壊の場合の想定被害状況

(1) 被害面積及び被害額

被害面積 (ha)				被害額 (千円)					
田	畑	その他	計	作物	農地	農業用施設	公共施設	家屋その他	計
4.2	—	—	4.2	2,697	—	1,440	19,172	29,709	53,018

(2) 原因究明

堤体及び基礎地盤の耐震性能不足に起因する決壊

(3) 被災検討

ため池下流農地、農業用施設、公共施設、家屋等に多大な被害を及ぼすと考えられる。

(4) 受益地域図 添付図面参照

(5) 被害想定区域図 添付図面参照

7 改修補強工法 堤体下流側を地盤改良工法により補強する。

8 営農計画及び土地利用計画 該当なし

9 用水計画

(1) 計画基準年

昭和35年(かんがい期間有効雨量1/10年)

(2) 計画諸元

ア かんがい期間

5月11日～9月20日(代かき期5月11日～6月11日)

イ かんがい方式 湛水かんがい

ウ 用水慣行 特別な慣行なし。

(3) 計画用水系統

既設貯水池の改修のため、現況と同様とする。

10 主要工事計画

(1) 総括表

名称	八木沢貯水池			位置	渋川市小野子字井戸上				
堤体	形式	流域面積 (km <sup>2</sup> )		堤高 (m)	堤頂長 (m)	堤体積 (千m <sup>3</sup> )	基礎地盤地質	貯水量 (千m <sup>3</sup> )	
		直接	間接					総貯水量	有効貯水量
	均一型	0.001	—	3.8	82.0	—	沖積礫質土	3	3

(2) 堤体補強計画

堤体下流法面の法尻を地盤改良することで耐震補強する。

(3) 頭首工 該当なし

(4) 揚水機 該当なし

(5) 用水路 該当なし

1.1 附帯工事計画 該当なし

1.2 環境との調和への配慮

(1) 環境との調和への配慮の方針

地域の実情に即しつつ環境との調和への適切な配慮を行い、ため池及びその周辺緑地、森林の自然環境や生態系の保全を図る。

(2) 環境との調和への配慮に伴う配慮内容

ア 位置 ため池

イ 配慮すべき生物

マツモムシ、ミズカマキリ、ヤゴ (ヤンマ)、アメンボ、モノアラガイ

ウ 配慮内容

ため池外側の改修となるため、環境面への影響はない。

1.3 工事実施年度 令和5年度

1.4 工事費の総額 9,276千円 (令和5年度予算)

## 1 5 効用

区分	年増加見込効果額 (千円)	年増加見込所得額 (千円)	備考
作物生産効果	1,646	1,831	効果算定年度 令和4年度
営農経費節減効果	△19	△19	
維持管理費節減効果	△131	△131	
災害防止効果（農業）	265	265	
災害防止効果（一般資産）	1,902	—	
災害防止効果（公共資産）	1,227	—	
国産農産物安定供給効果	225	225	
計	5,115	2,171	

(参考) 総費用72,126千円 総便益72,953千円 総費用総便益比1.01

## 1 6 関連する事業 該当なし

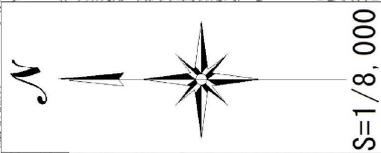
## 1 7 添付図面

- (1) 計画一般図
- (2) 被害想定区域図
- (3) 計画平面図
- (4) 標準構造図

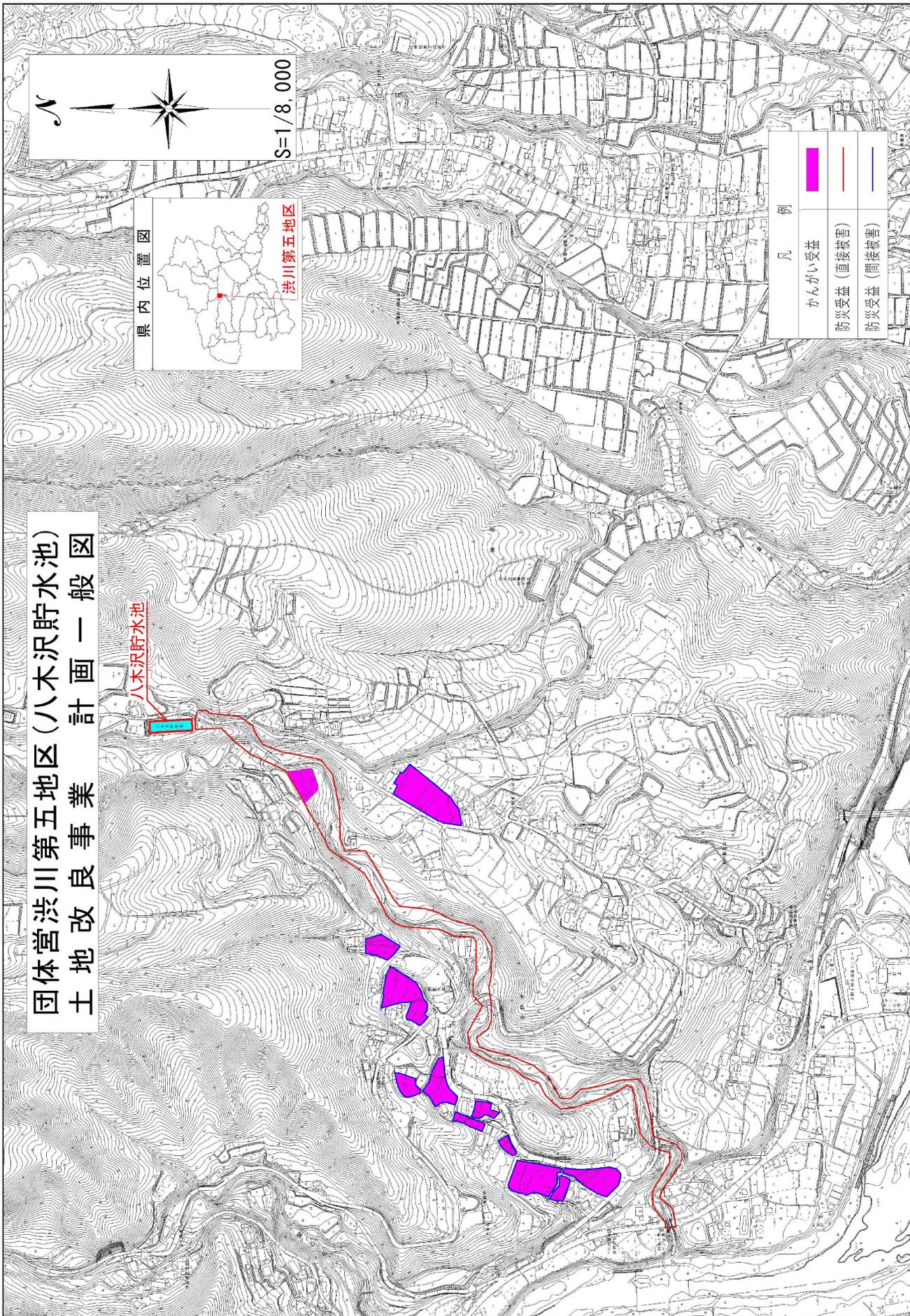
# 団体営渋川第五地区(八木沢貯水池) 土地改良事業 計画一般図

八木沢貯水池

県内位置図

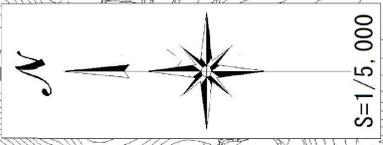


凡 例	
かんがい受益	■
防災受益(直接被害)	—
防災受益(間接被害)	—



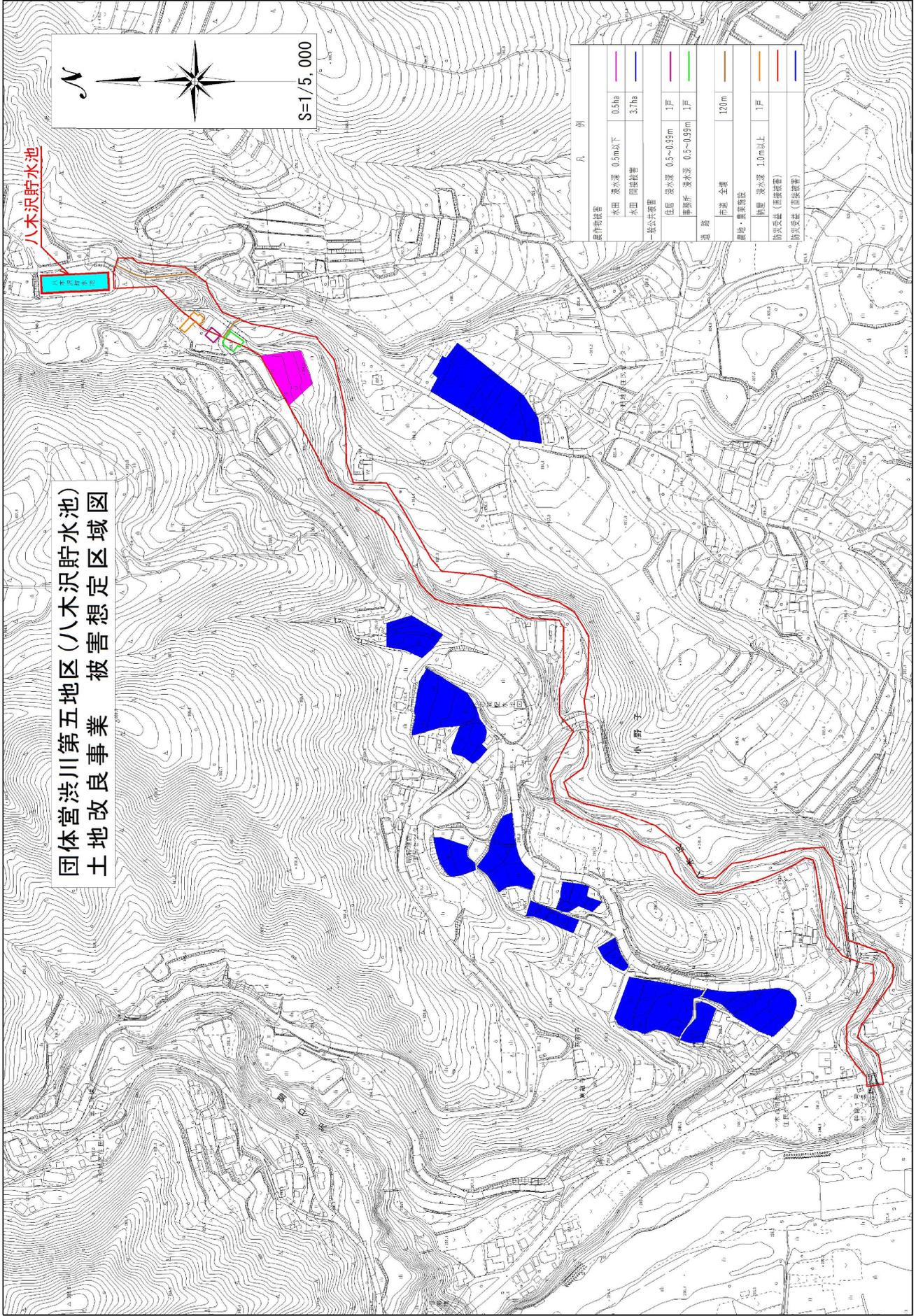
团体堂洪川第五地区(八木沢貯水池)  
土地改良事業 被害想定区域图

八木沢貯水池



凡 例

貯水池種別	水田	浸水深 0.5m以下	0.5ha
	水田	浸水深 0.5~0.99m	3.7ha
一般公共施設	住居	浸水深 0.5~0.99m	1戸
	事務所	浸水深 0.5~0.99m	1戸
道	市道	全線	120m
	町道	全線	120m
	農道	全線	120m
	堤	浸水深 1.0m以上	1戸
	防犯堤	(浸水深)	
	防犯堤	(浸水深)	
	防犯堤	(浸水深)	



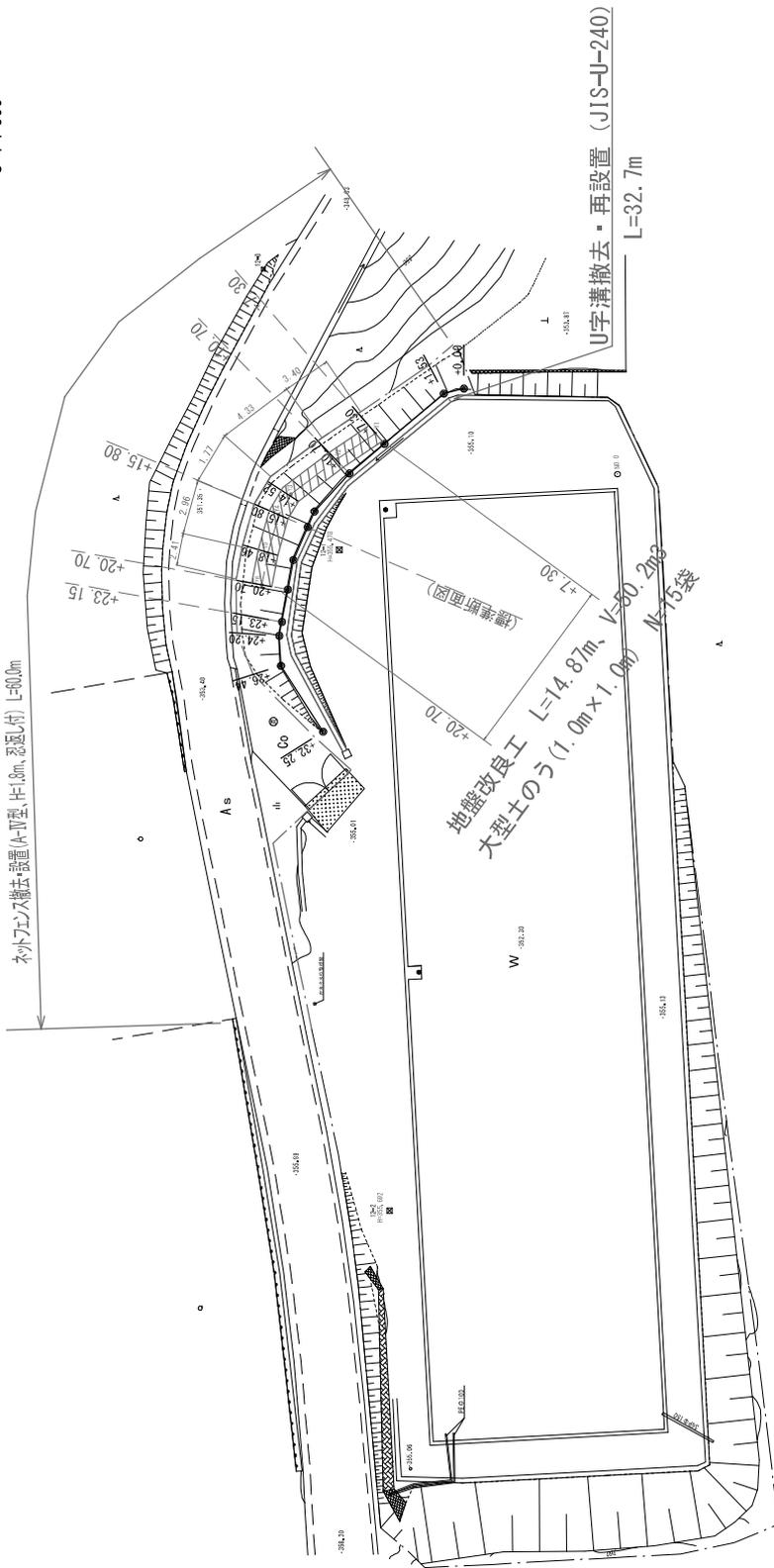
# 団体営渋川第五地区(八木沢貯水池) 土地改良事業 計画平面図



S=1 : 500

両側壁門扉排水装置(片1.8m、片4.0m、直忍付) 1片楕

水口フェンス撤去装置(A型、片1.8m、忍返し付) L=80.0m



団体営澁川第五地区(八木沢貯水池)  
土地改良事業 標準構造図

